

あなたがFXで儲 からない理由

著：Fnamaro

<著作権について>

当レポートは上記発行者の日本国の法律(著作権法)によって守られている著作物です。

発行者の書面による許可無く、当レポート一部をあらゆる媒体(文書、音声映像など)に転載、流用複製することを禁止します。

上記に反する行為をされた場合は、法的措置がとられますので、ご注意ください。

<免責事項について>

当レポートの内容は、発行者独自経験・ノウハウをまとめたものでありすべての人に同一効果・影響を保証するものではありません。

また、当レポートの内容に対していかなる行為をされ
損害を受けることになりましても、発行者・配布は一切の責任を負いません。

目次

はじめに

1. 投資の期間を明確に
2. 為替を動かすイベント
3. 要人発言の影響力
4. 経済指標
5. 相場を読む力
6. いつ仕掛けるか？
7. レバレッジのしくみ
8. 「レバレッジ」は何倍まで効かせればいいのか？
9. 巨額の損失を避けられるしくみ
10. あなたが儲からない理由
11. 小さく賭けて回数の分散を
12. 失敗を活かす
13. 休み
14. 自分の必勝パターンを確立しよう

はじめに

あるとき、私は気付いたのです

私のまわりにいるFXをやっている人の中で

勝率が悪いのに利益の出る人

勝率が良いのに利益の出ない人

がいるのです

その人達がどんな取引をしているのか調べてみました

それぞれ努力をして相場に望んでいますが

その努力の仕方に違いがあったのです

FX初心者の方にも分かりやすいように紹介します

1. 投資の期間を明確に

FX の特徴として投資の期間によってその方法が
まったく変わってくるのです
理由は市場参加者が期間によって違って来るからです

為替を実際に動かしているのは世界中の市場参加者です
その動きを読まなければなりません

「長期」の場合

長期とはだいたい1年以上の取引を指します
注意すべき動向は GDP、国内景気、貿易収支、政治力、軍事力 等
2国間のファンダメンタルズです

為替レートの将来動きは誰にも分からないものです
だったら、ちょっとくらいの値の変動なんて気にしない、
値が落ちてもしばらくすればまた戻るさ、
くらいの感覚で取引をしています

つまり、為替の差益で利益を確保するよりもスワップ金利を稼ぐのです

長期の取引を行っているのは年金基金や保険会社があり
やはり金利の確保で利益を狙っています
いま日本の金利はゼロ水準にあるので外貨を買うことを基本としています

また、今後、個人投資家による FX が増えれば
1500兆円ともいわれる日本の個人金融資産のうち
1%でも外貨投資に向かえば、その額は15兆円にもなる
個人投資家の動向も外貨に大きな影響を与えるようになるでしょう

長期の取引で注意しなければいけないのはストップロスです

損失が出たまま放置しておく、そのまま大きく膨らんでしまった場合
また回復するのを待てばいいのですが
そのまま回復しない場合ストップロスがかかったりします

そうなればその時点で取引が精算されてしまい
損失が確定してしまいます
これではその先の長期の取引ができなくなってしまいます

なので、レバレッジを2~3倍くらいの最小限に抑えてしまいましょう

「中期」の場合

中期とは1~2ヶ月くらいの取引を指します
G7などの国際会議や大口のトレーダーがどんな注目をしているか
のファンダメンタルズに注意しましょう

さらにチャートを分析して
ファンダメンタルズの予想とチャートの動きがリンクすれば
だいたいその通りに相場は動いてくれます

「短期」の場合

短期とは1~2日くらいを指します
金利、経常収支、イベント、要人発言、市場参加者の動向に注意します
1~2日ではファンダメンタルズは反映されにくいのです

短期で取引しているのは銀行のディーラーや商品ファンドの運用者や
ヘッジファンドもあります
為替差益による利益を目的としていて
とくにヘッジファンドは短期間で膨大な資金で売り買いするので
レートを大きく動かす力があります

2. 為替を動かすイベント

G7 とサミット(首脳会談)等です

G7 は開催頻度が多いのでサミットより為替への影響力は大きいようです

G7

先進7カ国(アメリカ、日本、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、カナダ)の財務相・中央銀行総裁による会議で開催頻度が多いので影響力はかなりあります

それぞれの自国の経済問題が他の国の影響を受ける場合に解決の為の議論を行っています

我々はその動きを確認したいときにはコミュニケと呼ばれる声明文を読んでみましょう

コミュニケとは G7 で議論された内容がまとめてあり今後の世界経済がどんな動きをするのか示しています

コミュニケの内容によって為替は一気に大きく動くこともあります

3. 要人発言の影響力

要人とは各国の財務大臣クラスを指します

要人がいままでとは違った発言をするときは
為替に大きな影響を与えます

例えば

「何かしらの対応が必要になる」といった内容の場合は要注意です

もしこれをアメリカの財務長官が言った場合は
市場参加者はアメリカがドル売り介入をしてくるのではないかと
考え、いっせいにドルを売ってくるでしょう

要人の中でとくに注目すべきは米国財務長官の発言内容です

なぜかといいますと為替市場では米ドルが基軸通貨なので
多くの米ドルが取引高を占めているからです

米ドルの次に取引高が多いのはユーロなので
ECB 総裁(トリシェ氏)の発言内容も注目しましょう

基本はこの二つを中心に、さらに自分のポジションを取っている
通貨を発行している国の中央銀行総裁の発言もあわせて注意しましょう

中央銀行では金利を変動させることができるので為替レートに影響力があるのです

4. 経済指標

米ドルは世界の基軸通貨なので
特に米国での経済指標は注目しなければいけません

経済指標といっても、GDP 成長率、景気指標、政策金利
雇用統計、経常収支、消費者物価指数、住宅販売動向 など
たくさんあり、すべてをチェックするのは大変です

そこで、注目すべき指標を絞ってしまえばいいのです
絞り方は、いま市場参加者は何に注目しているのかを考えます

たとえば、貿易不均衡が問題視されていれば経常収支に注目すればいいですし
景気動向が注目されていれば雇用統計に注目すればぐっと分かりやすくなります

その時々で注目すべき指標は絞れるのです

経済指標は FX 会社のサイトで公開している場合があるので
チェックしてみましょう

日本国内ではどんな経済指標が注目されているのか？
それは GDP 成長率と日銀短観の二つが重要です

GDP 成長率は国の経済拡大率を表しています
日本の GDP 統計は3月、6月、9月、12月時点のものが
1ヶ月半後位に公表されるのでリアルタイムでの情報性は薄いです

日銀短観は、国内企業の景気感を表しています
その中で最も注目すべきは製造業の業況判断 DI です

業況判断 DI とは各企業へのアンケートをもとに企業としての
これからの景気感を統計しています
「良い」と答えた企業が多ければ景気感が良いということになります
これが金融政策に大きな影響をあたえるのです

あと GDP 成長率、日銀短観ほどではありませんが
経常収支もそこそこ影響力があります

例えば日本の経常収支が黒字拡大であれば
貿易不均衡が問題視され円高が進むといった感じです

5. 相場を読む力

トレンドが上昇、下降もしくはもみ合いの中で
そこから大きな動きを見せるときにはなにかしらの原因があります

相場はなんの原因もなく動きを見せることはほとんどありません

(例)

上昇トレンドの中で徐々に上昇の動きが小さくなってくれば
売りと買いが対立してきている現れです
トレーダーはこの動きを見守りちょっとでも上か下に動き始めれば
一斉に買いや売りをはじめます

そこに気付けるかが勝負です

大事なものは日頃から値動きに注目してなぜ今こう動くのかに
興味をもって調べられるかです

繰り返していくうちにトレーダーの行動心理が見えてきます

つまり、「みんなこう思っている」という
行動心理を想像できれば良いのです

この経験が相場の動きを読む力です

6. いつ仕掛けるか？

相場はいったん入ってしまうと冷静な判断が
つかなくなる場合が多いものです

そこで、重要なのが投資に入る前に自分なりのシナリオを
作っちゃうことです

冷静な期間にじっくり観察してどう動けばいいのか投資に入る前に
決めておくのです

株式投資だと経済状況やこれから注目される
業種はどんなものか調べますよね？

FXもおなじようにどの通貨を買うのか売るのか
シナリオを作っておくのが大事です

シナリオを作ったらあとはチャートでレートの動きを確認すれば
いつ仕かければいいのか見えてくるはずですよ

あと、長期や中期の取引でも
投資をしたら放りっぱなしではいけません
その間も情報収集や分析をして準備をしておきましょう

7. レバレッジのしくみ

FXには株式投資やCXとは違った「レバレッジ」
という仕組みがあります

日本語に訳すと「てこ」という意味らしいですが
実際どういう効果なのでしょう？

FXは中間業者にある程度の金額を納めて初めて取引が始まります

そこで、レバレッジを効かせることで少ない資金を元にして
その何倍もの金額の取引を行うことができるようになるのです

ではどうしてレバレッジはこのようなことができるのでしょうか？

それは、FXの場合、通貨を購入しているのではなく
投資家が預けたお金を担保としていると考えると分かりやすいと思います。

8. 「レバレッジ」は何倍まで効かせればいいのか？

外国為替取引をするときに誰もが悩むところではないでしょうか？

FX では通常、20倍くらいは普通に取引可能です

FX 取扱会社によっては100倍のレバレッジが可能な会社もあります

FX 取扱会社の広告を見るとレバレッジの倍率を大きく用意している方が、サービスが良い様な書き方をしているところがあるので注意してください

レバレッジを大きくすれば、その分損失も大きくなるんです

FX では、預け入れた証拠金(担保)でまかなえる
リスクの範囲内でしかポジションを持ってないのですから
損失が出たときにレバレッジが大きければ
すぐに損失が膨らんで取引停止になってしまいます。

せっかくポジションを持っても
すぐにストップ・ロスになってしまうわけです

そんな取引を繰り返せば
すぐ資金は底を付いてしまいます

レバレッジの倍率を大きく用意していても
サービスの良し悪しには関係ないのです

私の経験上レバレッジは5倍までが妥当でしょう

それ以上はFXに慣れてきた方や
高いリスクをとりながら積極的にリターンを
狙いたい場面以外はやめておいた方が無難です

9. 巨額の損失を避けられるしくみ

ロスカット

投資家が取引で損失が生じた場合
その額が預け入れ額の20%を切ると
中間業者はその取引を決済します

マージンコール

それ以前に50%程度になった際に担保(証拠金)の追加を
要求したり取引の金額を縮小するように勧告されたりします

ちなみに、ロスカットやマージンコールの条件はFX取扱会社によって異なります
ので取引を始める前に必ず確認するようにしましょう。

10. あなたが儲からない理由

さて、そろそろ儲けの話に入りたいと思います

相場はある程度の準備をすれば勝てるようにはなりません

ただし、勝率 = 儲けること は別問題なのです

じゃあ、トレードで儲けるにはどうすればいいのか？

簡単です

トレーダー達の失敗体験を頭に入れて
大負けするリスクを回避できればいいのです

私も含め、周りの人の失敗談をまとめてみました

時間をかけてコツコツ積み上げてきた利益がまとまってきたので
欲が出て大きな取引をする
結局、一回のトレード失敗ですべて無くしてしまった

損失が生まれて様子を見るうちにさらに損失が膨らみ
損切りのタイミングを失ってしまった
結局、投資方針をスワップ金利に変えてしまう

レンジ相場(ボックス圏相場のことで、そのボックスの幅をレンジともいう。よっ
てレンジ相場という)で何回も損失を出してしまう

損失を出せば出すほど取引ごとの金額が大きくなってしまふ
失敗を取り戻すには大きく賭けるしかないと考える

自分でドルが上がると予想してドルを買う
買ったのはいいがすぐドル安になり不安になって売ってしまう
でも実は大きなドル高トレンドの最中だった

ストップロスオーダーを設定するのに欲が出て解除してしまった
結局、相場が崩れてポジションを持ち続けることになる

始めから最大限のポジションを持ってしまい
相場が崩れたときに損失が膨らみ身動きがとれなくなる

大きな利益を取ってもその後に派手な売買を繰り返し利益がすべて無くなっ
てしまう

評論家の言ったとおりにポジションをとって損失を出してしまう

自分の予想があるのに周りの人の意見に流されてしまう。結局、相場は自分
の予想通りに動いてしまう

どうですか？

このなかで一つや二つくらい経験はあると思います

その失敗を繰り返していませんか？

11. 小さく賭けて回数を分散

相場で一番大事なものは経験です
それには相場回数がものをいいます

そして一番いい経験は何度も失敗することです
そのためには最初に小さく賭けておけばいいのです

べつに勝たなくてもいいのです

最後に利益が残ればいいのです

たとえ7割負けても残りの3割の勝ち分で
利益が大きければいいのです

なるべく負けの回数を積んで
負けに対する自分なりの回避策パターンを作ってください

12. 失敗を活かす

一番良くない失敗は

損失が出た時に
あきらめずに自分の損切りルールを捨てて
ナンピン買いを繰り返してしまうこと

失敗したときは
シナリオ通りにいかないときは
どこを読み間違えたのかを分析・検討して次回に活かすことです

同じ失敗を繰り返さなければ負けは小さくなってきます

そうなればたとえ4勝6敗でもプラスになってくるでしょう

13. 休み

いくら回数を増やして経験を積むのが
有効といっても毎日、24時間取引をするのは別問題です

大事なのは自分の中で「ここだ」という
確信が持てたときに集中して取引することです

トレンドがはっきりせず、どうも方向がつかめない
こんなときは休みをいれてクールダウンさせるのも効果的です

ただし、休んでいる間もクールダウンした目で
情報収集や分析は続けましょう

相場に入っていないときこそ冷静な判断ができるのです
勝負ができる局面が来るまでじっくり待ちましょう

14. 自分の必勝パターンを確立しよう

負けたときの要素として考えられるのは
おおまかにこんな感じだと思います

自分自身の性格
テクニック、知識不足
事件など、予測不可能な出来事

はどうしようもないですが、 は努力次第でなんとかなります

を少なくすれば勝率は上がってくるでしょう
取引ごとになぜ勝ったか、なぜ負けたかを考えて
自分の必勝パターンを作りましょう